

令和2年度 第5回学校運営協議会 事前書面協議 意見一覧

『視点』	学校関係者評価、意見等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体的な学習活動が習慣化されてきているのが素晴らしい。</li> <li>・Google MeetやGoogle Classroomの活用が進んで生徒達にどのような効果が現れてきているのかを具体的に知りたい。また、効果的な活用法についても教えていただきたい。</li> <li>・今年度は残念ながら貴校の教育活動に直接触れる機会を持つことができなかったが、学校からのご報告から、この状況下でできる限りの取組みをされたことが分かる。</li> <li>・昨年度末からの新型コロナウイルス感染拡大により学校運営や授業、行事のあり方等、大きく変えざるを得ない1年で、ご苦労が多かったことと思う。</li> <li>・スタディジョギングを3年生も後期からの実施に向けて素案を作成したとのこと。1, 2年生での学習習慣を途切れさせないよう、来年度は年度当初から全学年で実施できると良いと思う。</li> <li>・Google Classroomを休校終了後も利用されていると聞き、今後感染症だけでなく、いつ起こるか分からない災害等にも備え、継続して活用していけたらよいと思う。</li> </ul>
2 生徒指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の時の報告で感じることは、生徒一人ひとりに対して丁寧に接することを心掛けているということ。これに関しては総合的な(学習の時間)授業の対応でも感じられた。学校側の生徒を管理しようという姿勢ではなく、自主的に何かをやるようにしたいという温かい見守りの姿勢を感じた。</li> <li>・セレックでの点字絵本製作指導を10年以上続けてきたが、今年度初めて作業を途中で投げ出す生徒が出た。継続力の弱い生徒には、次の予定をはっきりさせること、コンスタントに見守られていると感じられる環境づくりが大切と実感する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、緊急事態宣言をはじめとして様々な対応が必要となり学校においては、時短、部活自粛、臨時休校等、以前とは異なる状況のもとで対応を取らざるを得なくなったなか、工夫を凝らして対応されたことは高く評価する。</li> <li>・教育相談の情報の集約化ができたことは喜ばしいことだが、今後、集約した情報を実際の対応に生かしていく方策が必要と思われる。</li> <li>・生徒自身の発案による現状に応じた行事の実施は非常に素晴らしいことと思う。ただ、新型コロナウイルスの対応は今後も必要なことと考える。行事のみならず、事業実施に伴い、今後も継続的な対応を前提とした中での実施を考える必要があると思われる。</li> </ul>
3 進路指導 ・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対象の進路説明会の開催や個々の生徒に対する進路適性検査と面談の実施で、各々に見合った進路指導を行ったことを評価する。</li> <li>・大学入試対策として、コミュニケーション・プレゼンテーション・論文などの強化と基礎学力の向上を今後の目標としたことを評価したい。</li> <li>・学力の向上を中心に指導しながらも、生徒に対しては短期、長期それぞれの目標を設定させ、その目標を1つ1つクリアさせることにより、達成感と意欲を掻き立て、自主的に行動する生徒の育成を今後も希望する。</li> <li>・完校まで2年、生徒には自分たちで考え、議論し、行動することにより、楽しく充実した学校生活を送っていただきたい。</li> <li>・保護者向け進路説明会等の実施において、参加人数が少ないように思われる。開催日時等が適切であったか等、検討が必要と思う。</li> <li>・例年と異なる状況の中、生徒への進路説明会や面接対策等を実施したことで、進路意識の向上を図れたところは評価できる。今後も生徒の希望する進路実現に向けてきめ細かい指導を期待する。</li> <li>・大学入試改革等に迅速に対応した進路説明会の実施により、適切な情報を得られた。</li> <li>・生徒の進路希望の変化に対応しながら進路希望調査や面談等を実施し、適切なアドバイスを行うことで生徒の進路意識の向上を図ることができていた。</li> </ul>

<p>4 地域等との協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合学習における地域連携において、今年度はコロナ禍の中、学校としてできる限りの努力をしたと思う。毎年行っていることを今年の生徒だけ受けられないということにしたいと学校側の強い意志を感じた。</li> <li>・2年生の地域インタビューでは人数や場所等、例年と違う形態で実施し、学校側としても戸惑うことが多々あったかと思うが、やり方を考え実行したということは評価に値すると思う。ただし、今後の課題としては、当日の連絡を生徒と市民(インタビュー)が直接できるようにしないと行き違いになるグループがでると思う。</li> <li>・1年生のワークショップに関しては今年度が最後になるということも踏まえて最後の年の集大成になったと思う。担当の先生たちの思いが伝わってくるような対応だった。講師の方からも担当の先生の意気込みが感じられ、気持ちよく授業ができたという感想を全員から頂いた。講師の方たちが感激していたのは最後の発表会での生徒の姿だった。生徒達が自分たちの言葉で発表していた姿が素晴らしいことだった。授業としてやったという感想ではなく、何かを感じてくれたということが感じられた発表だった。今まで講師を依頼して苦労したことがなかった。スケジュール的に都合がつかない場合を除いてほとんど快諾していただけた。講師によっては毎年楽しみにしていて、依頼をすると反対にお礼を言われることがよくあった。そして異口同音に言われるのが、忙しくても何を差し置いてもこの授業だけは行いたい、自分にとって今までの振り返りになるので、生徒のためというよりも自分自身にとっても人生の勉強になるということであった。今年度の1年生のワークショップは最後にふさわしく、学校側として先生も生徒も満点の対応だった。</li> <li>・地域講師によるワークショップについては、コロナ禍でも例年に比べ遜色ないどころか、学校と講師の連携がスムーズで、発表会もこれまでで一番良かったとの声が上がった。10年間の蓄積の重みである。さらに今年に関して言えば、担当された先生が2回目だったこともあって連絡が早め早めで、頻度も例年より多く(2倍くらい)学校と講師側とのコミュニケーションが非常によく、安心して臨めたことが大きいと思う。</li> <li>・2011年の初回に、2年生7クラス全270名の生徒と各クラス1冊ずつ点字絵本を作り、2・2・3クラスずつユニバーサルデザインについて考えるワークショップも一人でやったのが、逗子高校のワークショップの始まりであった(全5時間)。この取組みは当時朝日新聞と神奈川新聞に掲載された。今の形の落ち着くまで2~3年かかっており、新校には新校のカラーでやり方を発展していけばよいだろうと思う。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、学校のみならず地域においても様々な対応が必要となり、その厳しい状況下で調整してワークショップや地域インタビューが実現できたことは大変喜ばしいことと思う。</li> <li>・新型コロナウイルスの対応は一過性のものでなく、今後もボランティアの分散開催などの継続的な対応が必要と考えられるので、今回の対応を踏まえ、以前実施した以上の成果が見込める方策を考えていくことが必要と思う。</li> </ul>
<p>5 学校管理 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言下では部活動も時間制限をかけられることで、職員の勤務時間の短縮は進んだのではないかと思うが、それを維持できるかが今後の課題になるのではないか。</li> <li>・感染症対策もあり、先生方の仕事が増えていると思うが、職員の働き方の意識はどの程度変わってきたのか。</li> <li>・先日も大きな地震があったが、あと数年とはいえ、老朽化した建物なので、災害時に耐えられるよう破損部分は早急に修繕をお願いしたい。</li> <li>・生徒のことを第一に思う教職員にとって、働き方改革を額面通りに実行することは、なかなか難しいと思うが、そのような中で職場の雰囲気を変えたり、先生方の意識改革を促すとともに、管理職からの働きかけで、休暇の取得率の向上を図ったことは評価できる。</li> <li>・完校目前で大規模修繕等は行えないと思うが、老朽化が著しい校舎を見ると、施設・設備による事故が発生する懸念がある。そのような環境で、生徒・教職員の安心、安全を最優先に位置付けている姿勢を評価する。</li> <li>・施設や校舎の老朽化による異常が多く見られるようであるが、完校までの2年間、事故が起こることのないように補修を適切に行ってほしい。</li> </ul>